

団地再生と分散・分棟の地域拠点の創生とその組織化の面から 「多世代の家」が果たす役割

- フランクフルト近郊の3つの「多世代の家」 -

THE ROLE PLAYED BY "MEHRGENERATIONENHAUS" IN TERMS OF THE REGENERATION OF APARTMENT COMPLEXES AND THE CREATION AND ORGANIZATION OF DECENTRALIZED AND ANNEXED COMMUNITY CENTERS

Case of Three "Mehrgenerationenhaus" near Frankfurt

○下平真由*¹, 米ヶ田里奈*², 松原茂樹*³

SHIMODAIRA Mayu, MEKATA Rina and MATSUBARA Shigeki

This paper reports on the operation and facility planning of three "Mehrgenerationenhaus" operating in a suburban residential area of Frankfurt am Main, two of the three being directly operated by each city; the commonality of the three cases is that they are newly developed residential areas or housing complexes to provide housing in response to population concentration and the area's The use of the property has been converted in response to changes in the social composition, such as high immigration rates and the aging of the population. All three cases also have multi-generational activity programs and are centers of community support.

Keywords : Mehrgenerationenhaus, regional base, Immigrant and Refugee Assistance

多世代の家, 地域拠点, 移民・難民支援

1. 本稿の概要

我が国をはじめドイツやイタリアなどの諸外国では、少子高齢化の進行、核家族の定着、多世代での交流の減少や地域コミュニティの希薄化を背景に、地域コミュニティの場の重要性が示唆されており、様々な取り組みがなされている。本稿では、ドイツ連邦政府の「Mehrgenerationenhaus（多世代の家）」の取り組みに着目し、フランクフルト・アム・マイン市内中心部から30km圏域の集合住宅地（団地・振興住宅地）にて、地域コミュニティの再構築や拠点整備がされている3事例の施設計画や取組を報告する。

2. 調査概要

2.1. 事例が位置する都市の特徴

フランクフルト・アム・マイン市が位置するヘッセン州は、ドイツ16の連邦州のうちの1つで、ドイツ中央

西部に位置し、州人口はおよそ600万人と16州中5番目に多い。ヘッセン州は21の郡と5つの独立市によって構成され、郡にはその下級行政単位の177の市(stadt)と、244の町村(ゲマインデ Gemeinde)が属する。

フランクフルト・アム・マイン市は人口75万人超のヘッセン州最大の人口規模であり、5つある独立市の一つである。工業・産業・交通の要衝であり、世界最大級のハブ空港であるフランクフルト空港、ヨーロッパ最大級のターミナル駅であるフランクフルト中央駅がある。ヘッセン州の人口や移民・難民の割合を図1に示す¹⁾。フランクフルト・アム・マイン市周辺に位置する独立市や郡は、人口が多いだけでなく、移民や難民が多く住んでおり、他の地域と比較して割合が高い傾向にある。

2.2. 連邦政府による「多世代の家」について

「多世代の家」は2006年にドイツの中で進む少子高

*1 東京電機大学大学院未来科学研究科建築学専攻 修士課程

*2 東京電機大学大学院先端科学技術研究科建築・建設環境工学専攻 博士課程 /日本学術振興会特別研究員 DC・修士(工学)

*3 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授・博士(工学)

*1 Master Stud., Architecture and Building Engineering, Graduate School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ.

*2 PhD stud., Graduate School of Advanced Sci. and Tech., Architectural, Civil and Environmental Engineering, Tokyo Denki Univ. /Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, M.Eng.

*3 Prof., Division of Global Architecture, Graduate School of Eng. Osaka Univ. Dr. Eng.

齢化や地域間での経済力の差等の課題の解決策として世代間交流の促進に焦点が当てられ、連邦政府により立ち上げられたプロジェクトである²⁾。その主旨は、既に存在している施設を活用し、多様な特性をそれぞれもつ市民が、世代を超えた交流ができる場の提供による地域コミュニティの強化である。

ヘッセン州のオーデンヴァルト郡を除く、全ての独立市、郡に1以上の「多世代の家」が配置されている。こうした都市部に位置し、人口が比較的多く、移民・難民の割合の高い地区での多世代の家の役割を把握するため、調査協力の得られたダルムシュタット=ディーブルグ郡に位置する Mehrgenerationenhaus Groß-Zimmern (グロース=ツィンメルンの多世代の家), オッフェンバッハ郡に位置する MGH RaBe (多世代の家ラーベ), オッフェンバッハ郡に位置する MGH SchillerHaus (多世代の家シラーハウス) の取組や特徴を述べる。なお、本稿での報告は、2023年9月の各施設への訪問、並びに公開されている関連情報を元に記述する。

3. フランクフルト・アム・マイン市に位置する「多世代の家」3事例の報告

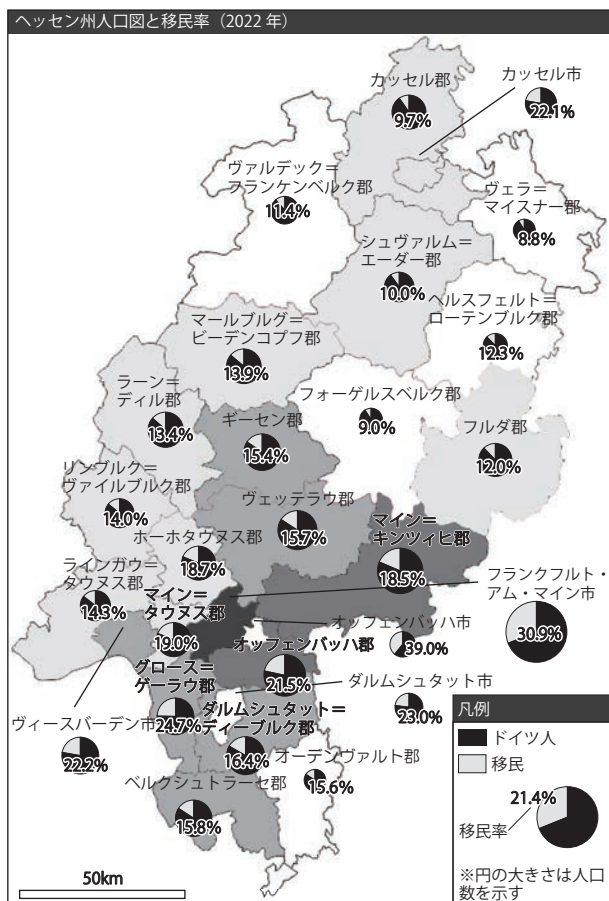


図1 ヘッセン州の人口と移民・難民の割合

3.1. グロース=ツィンメルンの多世代の家について

[基本情報] (写真1, 図2)

- 所在地: Otzbergring 1-3 64846 Groß-Zimmern
- 施設種別: 高齢者住宅併設認知症カフェ, コミュニティセンター
- 運営主体: 宗教法人 ディアコニー (Diaconie)
- 敷地面積: 700㎡程度
- 建築面積: 370㎡程度
- 延床面積: 670㎡程度
- 構造・規模: RC・3階建て (2階以上が高齢者住宅)
- 提供するサービス: 認知症介助者の会・講演会・高齢者向けテーブルゲーム・カフェ・裁縫・高齢者朝食会・就職支援・リペアカフェ等
- 運営時間: 月~金 9:00 ~ 17:00
- 休館日: 土曜日・日曜日
- 開設年月: 2007年秋

3.1.1. 地域性とコンセプト

■人口構成の特徴

ヘッセン州ダルムシュタット=ディーブルグ郡グロースツィンメルンは、郡内9の市と、14の町村の中の1つで、新興住宅地である。2023年人口は、およそ14,780人で郡内の町村の中では2番目に多い。同年の移民・難民人口は2,838人で、これが全郡人口に占める割合は19.2%と、郡と比較すると低い傾向がある³⁾。

■コンセプト

「Wohnquartier 4 (住宅地区4)」をコンセプトとしている⁴⁾。"4"は、①生活と生活環境、②健康・サービス・ケア、③仕事と雇用、④教育・芸術・文化、を示し、その活動内容は、これら4つの領域からのアプローチを図っている。

3.1.2. 施設の特徴

■建物の使用経緯と運営について

当多世代の家はグロースツィンメルン町に位置する、かつて近隣にあった州の青年協会が持っていた建物3軒のうちの1軒を使用している多世代の家。賃貸用で使用されていた本建物の譲渡により管理運営が多世代の家となった。多世代の家の運営開始にあたり、入口付近に事務所スペースとなる部屋を設けた。また、かつてシャワールームだった部屋は、タイルや排水溝等の名残を残したままパソコン室として使われている。

ボランティアスタッフ30名と常勤スタッフ5名で運営され、ボランティアと常勤は、それぞれが働くスペースを別に用意されている。高齢者へのデジタル教室や

子どもの預かり、カフェの居場所、部屋の貸し出し等、多岐にわたるイベントが行われている。イベント開催は、30名のボランティアスタッフのうち、イベントに感じ得意な方や、自主的に手を挙げる方等が行い、常勤スタッフはそのとりまとめや新聞、SNS（Facebook）等への広報活動を行う。

2007年からこの場所で活動を続けていく中で、地域の信頼を獲得していった。そうした繋がりから、現在は近隣の幼稚園や公共施設と連携したイベント開催を行っている。

■メインスペース

普段人々が、集まり居られる場所として開放しており、建物の中で「心臓」と呼ばれるスペースである（写真2）。30名のボランティアスタッフがそれぞれ得意と



写真1 施設外観

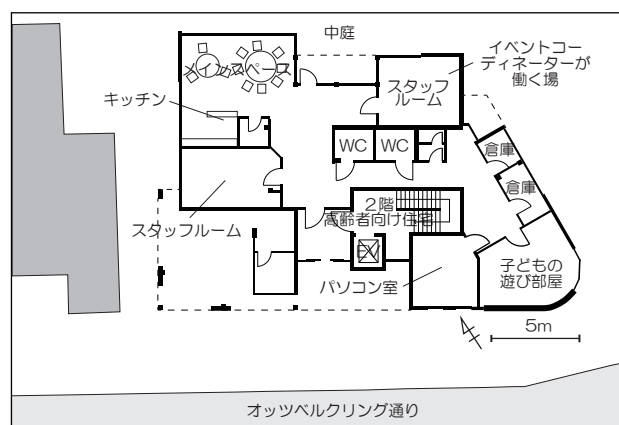


図2 配置図兼1階平面図



写真2 メインスペース



写真3 中庭

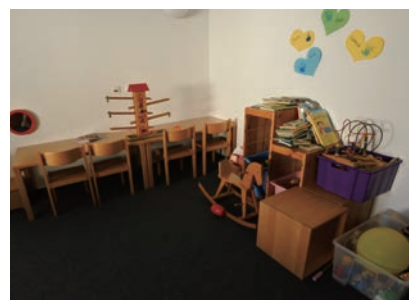


写真4 子どもの部屋

するイベントの企画・運営やカフェの業務等を担当し、この場所を用いて活動をする。イベントの発案プロセスには、①ボランティアスタッフが発案するケース、②施設の利用者から発案されるケース、③町（グロースツインメルン町）からイベント開催の依頼を受けるケース、の3パターンがある。利用者や行政と連携したイベント開催のため、ボランティアスタッフの確保や、周辺施設との関係構築を積極的に行っている。

■中庭（写真3）

中庭には、子どもたちの遊び道具を収納する小屋が、近年新しく設けられた。今後は、テラス席を常設する計画がある。多世代の家のイベントは時折、親子で参加できるような賑やかなイベントと、こどもだけの学習時間といった静的なそれとの重複がみられる。こうした居合わしての活動が難しい場合、中庭など仕切りの在る場所によって、より円滑に活動ができる。また、利用者らは中庭に出て天候の良さを味わうことで気持ちが晴れるといった声もあり、中庭は息抜きの場所提供にも繋がっている。スタッフは、中庭で遊ぶ子どもたちの声が入り隣の事務所スペースに届くことで、活気が得られる。

■パソコン室

冬場は寒く、冬季の利用が少ないことから、絨毯等の暖かな設えの計画がなされている。

■子どもの遊び部屋（写真4）

日常的に子どもが遊び、また、子どもの誕生日会の開催や親子同士での宿泊といった目的での、部屋の貸し出しが行われている。運営での利益を求めていることから、比較的安価に部屋貸しできる点が特徴。子どもをこの部屋に預け、父母のみがイベント参加するというケースが多い。一方、近年は託児を担当するスタッフの減少から、子どものケアの担い手不足が課題である。

■倉庫

子どもの遊び道具や、各種イベント、カフェが主催のボードゲーム交流会に使用されるボードゲーム等数多く収納されている。

■高齢者向け住宅（写真5）

上階には、高齢者6人が住む部屋がある。住む条件は「自力で生活できること」だが、ゴミ捨てや重いものを運ぶ際などは、近隣に本部をもつ青年協会が提供するハウスキーピングによる生活支援に頼ることもある。

3.2 多世代の家ラーベについて

3.2.1 地域性とコンセプト

■団地の特徴

ヘッセン州オッフエンバッハ郡ドライアイヒ市にある、南北に1km程広がるヘーゲル通り周辺の中層集合住宅地団地は、ソーシャル・ハウジングエリアに指定されている。フランクフルト国際空港から10km圏内に位置し近さを理由にかつては人気のエリアであった。近年移民や低所得者層の増加といった居住者層の変化や全体的な人口減少により、2007年にソーシャル・ハウジングエリアとして指定された。

移民の多い地区であり、83の国籍、5600人の市民のうち32.4%が移民、65%がドイツ生まれの外国籍、生活保護受給者が23%である。18歳以下の若年層が32%と60歳以上の高齢者層が25%と多く、平均年齢は41.4歳である。周辺に生活用品を揃えられる店舗が少なく、移民ら経営のスイーツベーカリーカフェと、日用品店の2店舗がある。そのため、買い物などでタクシーや車での移動を要する。

■取組のコンセプト

施設の位置関係の地図を図3に示し、具体的な機能と施設のコンセプトカラーを表1に示す。地区センター、3歳までの保育所、こども園、障害者住宅・高齢者住宅、ファミリーセンター、リサイクルショップは、互いに隣接しており、これら一体で「多世代の家」プログラムとして認定されている⁵⁾。これらの施設郡は「RaBe- 出会いの空間（「RaBe - Raum der Begegnung」）というコンセプトを共有し、カラス（RaBe）をモチーフとした同



写真5 外観写真

様のロゴと施設固有のイメージカラーが各施設に掲げられている。これにより、利用者の一体的な利用を促進している。

3.2.2 各施設の概要（表1）

■各施設のカラーと建物について

・青色：協力パートナーの非営利団体によるリサイクルショップ兼自転車工房（Klamotten-Forum/Fahrradwerkstatt）。多世代の家ラーベで最も北側に位置する。高齢化等が進む地区の将来に対し不安を抱く住民により1999年12月に設立された。地区の生活の質の向上を目的として、読書会や遊び場、自転車ワークショップ等様々なプログラムが実施されている。なお、当団体は、地区センターにて、毎週火曜日・木曜日の14時～16時半の間、子どもたち

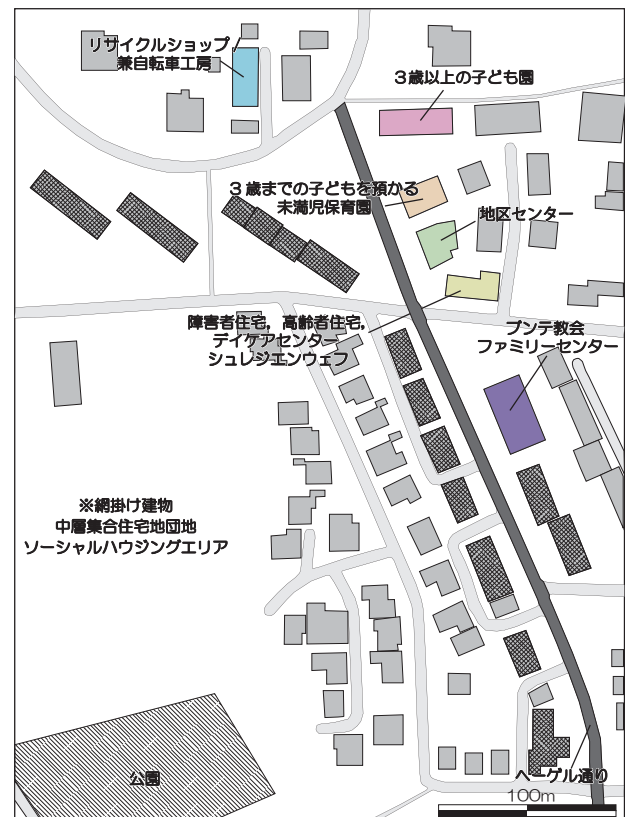


図3 周辺地図

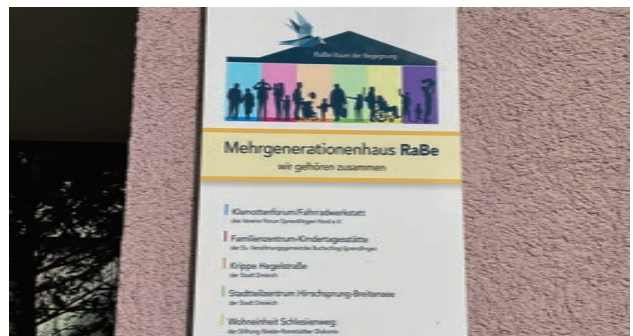


写真6 看板

の宿題サポートを実施している。

- ・赤色：キリスト教会系の社団法人の3歳以上の子ども園 (Familienzentrum-Kindertagesstätte)。3歳以上の子ども園。3歳までの保育園と隣接する。幼稚園は現在定員オーバーの状況である。
- ・橙色：市の直営の3歳までの子どもを預かる保育園 (Krippe Hegestraße)
- ・緑色：市の直営のヒルシュスプルング ブライテンゼー地区センター (Stadtteilzentrum Hirschsprung-Breitensee)
- ・黄色：協力パートナーの教会系の福祉法人 ニーダー・ラムシュテッター・ディアコニー (Nieder-Ramstädter Diakonie) が運営する障害者住宅、高齢者住宅、デイケアセンター シュレジエンウエフ (Wohneinheit Schlesienweg)。25人の知的障害・身体障害・ダウン症をもつ人が住んでいる。各階に共有のキッチンやバスルームがある。18歳以上の若者、大人、自立可能向けとフロアごとに分かれている。
- ・紫色：キリスト教会系の社団法人に委託しているファミリーセンター ブンテ教会ファミリーセンター (Familienzentrum Bunte Kirche)。教会とファミリー

センターが同建物内にある。女性（主に母親）や乳幼児のサポートを行っている。子どもに関する悩みや問題事（夜泣きや託児）の相談等が行われている。2階には、ウクライナ難民への居住地で提供されることがある。

各施設の入り口に掲示板が設置されており、州のプログラムや月のプログラム、イベント情報、ニュースレター等が掲示されている。掲示板には、イベントの開催場所が一目で分かるよう、地区センターの場合は StaZ、ファミリーセンターの場合は FamZ、リサイクルショップの場合は KF のように記載する工夫がされている。こうしたイベントの情報やプログラムはホームページやチャットアプリ ワッツアップ (What's up) から入手可能であり、インターネットの導入が利用者の拡大に繋がっている。

3.2.3 地区センター（緑色）について

本項ではより詳細にヒアリングができた地区センターについて述べる。平面図を図4に示す。地区センターの建物の北側には、無料で食べ物を提供するフードバンクと本棚が設置されている。午後の訪問時にはフードバンク内の食料は全てなくなっており、周辺住民に人気

表1 多世代の家ラーベの施設概要

施設名	リサイクルショップ/ 兼自転車工房 (Klamotten-Forum/ Fahrradwerkstatt)	3歳以上の子ども園 (Familienzentrum- Kindertagesstätte)	3歳までの子どもを預かる 未満児保育園 (Krippe Hegestraße)	地区センター (Stadtteilzentrum Hirschsprung- Breitensee)	障害者住宅、 高齢者住宅、 デイケアセンター シュレジエンウエフ (Wohneinheit Schlesienweg)	ブンテ教会 ファミリーセンター (Familienzentrum Bunte Kirche)
外観写真						
所在地	Berliner Ring 13, 63303 Dreieich	Hegelstraße 105, 63303 Dreieich	Hegelstraße 103, 63303 Dreieich	Hegelstraße 101, 63303 Dreieich	Schlesienweg 17, 63303 Dreieich	Hegelstraße 91, 63303 Dreieich
施設種別	リサイクルショップ 兼自転車工房	3歳以上の子ども園	3歳までの保育園	地区センター	障害者/高齢者住宅、 デイケアセンター	ファミリーセンター
運営主体	協力パートナー の非営利団体 スプレンドリッゲン ノルド フォーラム (Forum Nord e.V.)	キリスト教会系の 社団法人 (Evangelische Versöhnungsgemeinde Buchschlag- Sprendlingen)	ドライアイヒ市 (Dreieich Stads)	ドライアイヒ市 (Dreieich Stads)	協力パートナーの 教会系の福祉法人 (Nieder-Ramstädter Diakonie)	キリスト教会系の 社団法人 (Evangelischen Versöhnungsgemeinde Buchschlag -Sprendlingen) に委託
敷地面積	500 m ² 程度	1550 m ² 程度	900 m ² 程度	750 m ² 程度	820 m ² 程度	1350 m ² 程度
建築面積	448 m ² 程度	615 m ² 程度	345 m ² 程度	340 m ² 程度	370 m ² 程度	780 m ² 程度
延べ床面積	448 m ² 程度	615 m ² 程度	345 m ² 程度	680 m ² 程度	1110 m ² 程度	1150 m ² 程度
構造	RC造	RC造	RC造	RC造	RC造	RC造
規模	平屋	平屋	平屋	2階建て	3階建て	2階建て
提供サービス	衣料品のリサイクル販売、 自転車修理、日曜カフェ、 宿題の手伝い	3歳以上の子どもの 預かり	3歳未満の子どもの 預かり(定員30名の ところ、保育士不足に より現在10名が利用: 2023年3月時点)	6-12歳までの青少年教 室、お茶会、イスラム系 を中心とした子育て中の 母親のドイツ語教室、妊 娠中・生後1年目までの サポート:9+12(9ヶ月 の妊娠期間と12ヶ月の 乳児という意味)、暮らし の相談、高齢者訪問サ ービス・コミュニティセ ンター・スペースの貸出・ 体操・音楽等	定員16名の障害者・ 高齢者専用住宅としての 介護	体操講座、保護者向け交 流会、シニア向け体操 教室、ドイツ語教室、認知 症向けのサポートとイベ ント、子どもの遊び場提 供、相談、礼拝年間開催 お祭り
運営時間	10:00~13:00/ 10:00~12:00/ 14:30~16:30/ 13:00~16:30	不明	7:00~17:00	10:00~16:00	不明	不明
休館日	日曜・火曜・水曜・金曜	土曜日・日曜日	土曜日・日曜日	土曜日・日曜日	不明	不明
開設年月	1999年	不明	2017年設立	2017年にMGH認定	2017年入居開始	2017年Rabe加入

であることが伺える。見学時の15時頃からは、6歳～12歳の青少年教室が開かれていたため、入口の外で様々な民族のルーツをもつ子どもたちが大勢待機している様子が見られた。入口の吹き抜けには様々な言語で「ようこそ」と記載された横断幕が掲げられており、本地区が多様な民族で構成されているとわかる。

■地区センター集会室

1階エントランスホール右側の集会室（写真7）。この建物の中で最も広い部屋であり、お茶会やダンスレッスン、交流会など様々なプログラムが行われている。部屋の貸し出し等も行われており、部屋代として収入を得ている。隣接したキッチンには2017年のMGH採択時に広く改修された（写真8）。

■地区センター 子どもの放課後の居場所

2階で最も大きい部屋は青少年教室として利用されている（写真9）。放課後の15時の開館とともに多くの子どもたちが利用に訪れる。書架に多くの本が並んでおり、本の貸し出しが行われている。教室には卓球台やテーブルサッカー台が設置されている。訪問時には子どもたちが宿題をする様子が見られた。

3.3 多世代の家シラーハウスについて

[基本情報]（写真13、図5）

- 所在地：Schillerstraße 17 63322 Rödermark
- 施設種別：コミュニティセンター・児童館（日本の児童館に該当）
- 運営主体：Rödermark 市
- 敷地面積：700㎡程度（裏庭含めず）
- 建築面積：310㎡程度
- 延床面積：地階部分不明 680㎡程度（地区センター）
- 構造・規模：RC・平屋（一部地階）
- 提供するサービス：妊婦とファミリー層向けの子育て支援・子どもクラブ（工作・創作活動等）・学習教室・手芸教室・高齢者向け朝食・講演会・部屋の貸し出し

□運営時間：月～水 11:00～20:00，木～金 11:00～22:00

□休館日：土曜日・日曜日

□開設年月：2017年にMGH認定

3.3.1 地域性とコンセプト

■周辺地域について

ヘッセン州オッフエンバッハ郡レーダーマルク市の

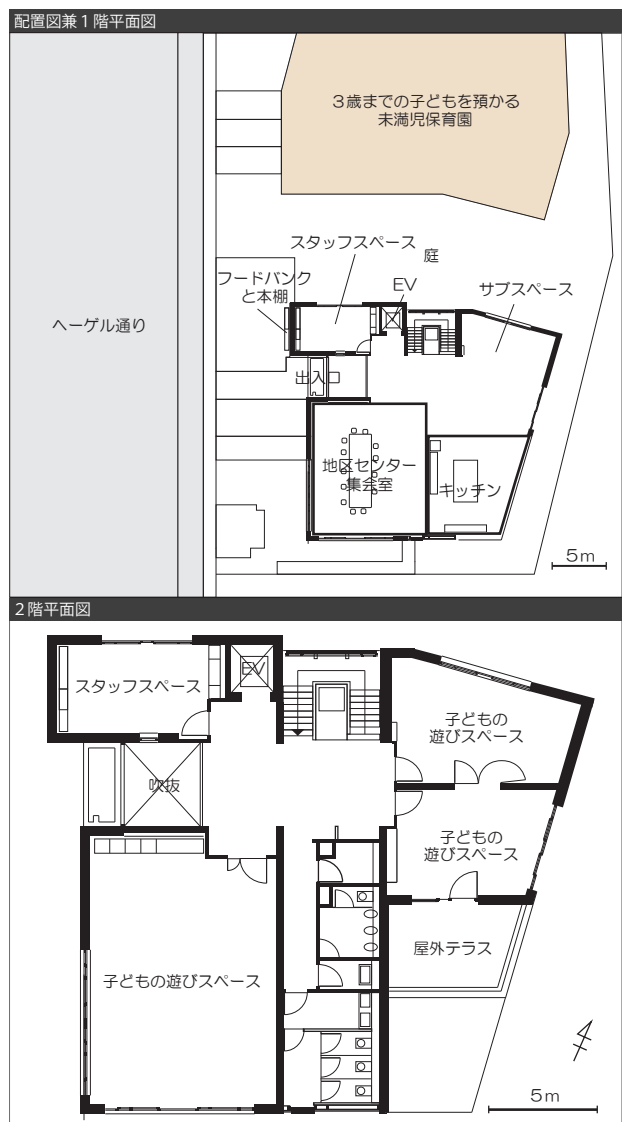


図4 配置図兼1階平面図と2階平面図



写真7 地区センター集会室



写真8 キッチン



写真9 子どもの遊びスペース

レーダーマルク・ウルベラハ駅近くのゼーヴァルト地域の大規模団地内に位置する。かつてのスーパーマーケットを改修したことから、団地の中心的な場所である。団地には子どもからお年寄り、その家族や移民・難民など様々な人が住んでいることから、団地やその周辺に住む幅広い全ての人を対象に多世代の家を開いている。周辺に大きなデパートやショッピングモール等の商業施設が増えたことによりそこで働く人が団地に住むようになり、子どもの数が年々増加傾向にある。

■施設のコセプト

団地の中心的な場所にあったスーパーマーケットを改修し市営にてオープンした異文化や多世代をつなぐ多世代の家。改修に際し寄付を行った F. Schiller(フリードリヒ・シラー氏)の名前にちなみシラーハウスと名付けられた⁶⁾。課題に対し、「解決」そのものを提供するのではなく、課題を持つ人々が「集まる場所」を提供することで、相互の関係性の元に課題を見出すことの手助けを行っている。



写真 13 施設外観

3.3.2 施設の特徴

■建物の歴史

かつては、ドイツの大手スーパーマーケットが入っていた。近くに大型ショッピングモールができたことを理由に撤退した。

■メインスペース (写真 10)

様々な人が利用可能のメインの活動場所。高齢者の

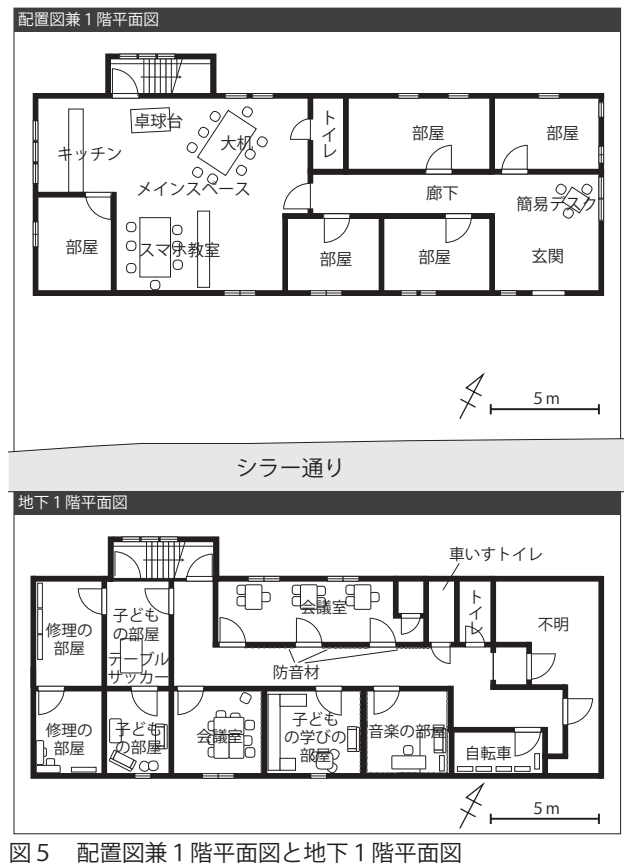


図 5 配置図兼 1 階平面図と地下 1 階平面図



写真 10 メインスペース



写真 11 キッチン

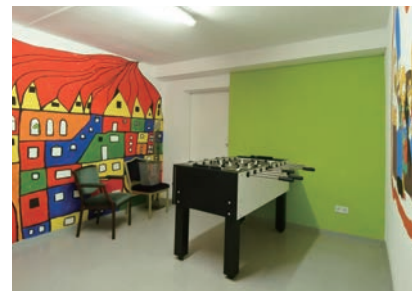


写真 12 子どもの部屋

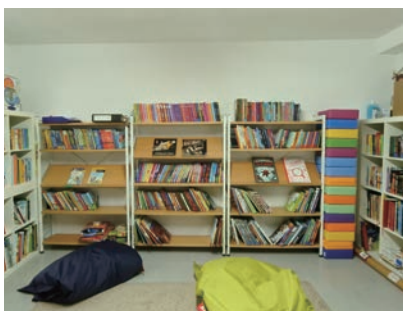


写真 13 子どもの学びの部屋

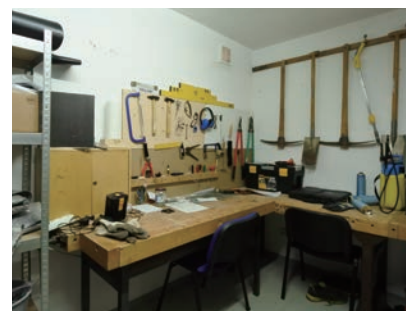


写真 14 修理の部屋



写真 15 音楽の部屋

スマホ教室が行われる他、簡単な料理が可能なキッチン（写真 11）があり、子どもからお年寄りまでが一緒に食事・談笑ができるスペースとなっている。卓球や絵を描く、PlayStation 等のテレビゲームがあり、近隣に住む小学生の放課後の居場所としても活用されている。

■子どもの部屋（写真 12）

子どもの数が年々増加傾向にあることから、子どもの放課後の居場所に力をいれている。子どもの部屋は木曜日・金曜日 15 時～20 時に開放している。子どもたちだけで使用できる部屋である。1 回に 20 人～30 人程（最大 40 人）が利用し、全体利用者数は 300 人にのぼる。利用に登録等の必要は無く、気軽に利用できる点が多くの利用者数に繋がっている。この施設から 3 km 離れた場所に規模の大きい放課後の子どもの居場所があり、最大 80 人まで収容可能で全体利用者数は 600 人。距離などの問題から子どもたちは場所を選びながら利用していると推察できる。

子どもの部屋は遊びの部屋の他に宿題やドイツ語を教える学びの部屋もある（写真 13）。町の図書館まで通えない子どもたちのため、多くの本を設置している。火曜日と木曜日に開放しており、本はその場で読むだけでなく、貸し出しなども行われているほか、紙芝居の読み聞かせ等のイベントも行われている。部屋の利用は無料だが、ドイツ語の語学教室は月謝制で利用料が必要。

■修理の部屋（写真 14）

多世代の家の修理担当の非常勤職員がおり、電気の交換や壊れた部分の修理を担当する。団地の方の簡単な手助けや、他業者への仲介業務等を行う。

■音楽の部屋（写真 15）

管理者の関係や騒音等周辺住民との兼ね合いの問題から週に 2 回、部屋を開放し、音楽活動、バンド練習などが行われている。

■裏庭

施設の裏には木で囲われた広い庭がある。遊具がいくつか設えられているが、基本的にはイベント時に使用されるもので子どもたちが遊ぶ様子が見られる。

4. 施設を横断した考察と総括

フランクフルト・アム・マイン市近郊の 3 つの多世代の家の運営と施設計画について概観した。2 事例が市の直営で運営されており、周辺地域のコミュニティの課題の大きさが伺える。

3 事例の共通点として、フランクフルト・アム・マイ

ン市に近接した郡に位置し、フランクフルト中央駅やフランクフルト国際空港等の都心部からのアクセスが良く少し離れた新興住宅地・集合住宅地で開かれる「多世代の家」であることが挙げられる。また、それぞれ都心部で働く家族世帯や移民・難民、低所得者、地域に昔から住む高齢者など様々な属性の人が暮らす地区である。こういった地域であることから、移民や高齢化など社会構成の変化を受け、用途転用した多世代の家である。一方で、様々な多くの人が住むこのような地域は、価値観の違いや環境から住民同士の衝突が起こりやすい地域でもあるといえる。コミュニティの支援が急務であり、町と町に住む人の生活が豊かになることを目的に、施設に応じた運営展開が行われ、施設を地域に開き、住民同士が助け合い、交流を深め合う施設づくりや事業運営が行われていることが指摘できる。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本研究は、科学研究費補助金（基盤 B）（22H01668）「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究（研究代表者：山田あすか）」の一環として行われました。

[参考文献]

- 1) ヘッセン州統計局, "ヘッセン州地区別 2023 年人口統計", <<https://statistik.hessen.de/unsere-neuen-zahlen>>, (参照 2024.02.23)
- 2) ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省, "連邦政府が行う多世代の家プロジェクトの全体概要", <<https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/programm/was-ist-das-bundesprogramm>>, (参照 2024.02.23)
- 3) ダルムシュタット=ディーブルグ郡行政 HP, 人口統計, <<https://www.ladadi.de/landkreis-verwaltung/unsere-aufgaben.html>>, (参照 2024.02.29)
- 4) ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省, "Mehrgenerationenhaus Groß-Zimmern", <<https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/mehrgenerationenhaeuser/haeuser-in-ihrer-naeche/steckbrief-mehrgenerationenhaus/mehrgenerationenhaus-gross-zimmern>>, (参照 2024.02.23)
- 5) ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省, "Stadtteilzentrum Hirschsprung-Breitensee (MGH Rabe)", <<https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/mehrgenerationenhaeuser/haeuser-in-ihrer-naeche/steckbrief-mehrgenerationenhaus/stadtteilzentrum-hirschsprung-breitensee>>, (参照 2024.02.23)
- 6) ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省, "SchillerHaus Rödermark", <<https://www.mehrgenerationenhaeuser.de/mehrgenerationenhaeuser/haeuser-in-ihrer-naeche/steckbrief-mehrgenerationenhaus/schillerhaus-roedermark>>, (参照 2024.02.23)